

報告

北海道支部集会の開催報告

内藤博之（なよろ市立天文台）、岡崎敦男（北海学園大学）

1. はじめに

2019年9月23日（月・祝）に札幌市環境プラザにおいて天文教育普及研究会北海道支部集会が開催されました。今回の開催目的の一つに、星空案内人（星のソムリエ®）の連携、交流の促進がありました。昨年9月に星空案内人に関する講演会を北海道支部会で主催し[1]、この1年間で北海道初となる星空案内人講座が美瑛町（丘のまち郷土学館「美宙」実施）で開講され、北海道2か所目となる星空案内人講座（芦別観光協会実施）が芦別市で開講されました[2]。北海道にも星空案内人が新たに誕生する中、天文教育普及に関する様々な取り組みについての発表・情報交換を行いました。開催日当日に西日本を横断していた台風17号の影響が心配でしたが、（若干のキャンセルが出たものの）ほぼ予定通りの32名の参加（図1）があり、有意義な交流を図ることができました。本稿では、令和初の開催となった2019年北海道支部集会について報告します。

2. プログラム

プログラムは参加者全員による自己紹介、塚本尚義さん（北海道大学・JAXA教授）による招待講演、一般発表（5件）、全体討議で構成されました。講演タイトルと講演者（敬称略）は以下の通りです。

【招待講演】

「はやぶさ2によるリュウグウの科学」

……塚本尚義（北海道大学・JAXA）

【一般発表】

「北海道の星空案内人講座開講について」

……荒明慎久（美瑛町郷土学館）

「高校現場や地域で「たのしい天文教育」

を目指しはじめて」

……高野 圭（北海道大樹高校）

「養護学校で宇宙の話をしてみた」

……増田文子（北海道大学）

「生涯学習施設支援WGの活動報告：

新WGへの引継ぎを含めて」

……福澄孝博（札幌市青少年科学館）



図1 集合写真

「なよろ市立天文台の取り組み 2019 夏」
……内藤博之（なよろ市立天文台）

2.1 招待講演

塚本さんの招待講演「はやぶさ2によるリュウグウの科学」では、小惑星探査機「はやぶさ2」による太陽系の起源と進化の科学についてのお話があり、「はやぶさ2」で期待される成果も紹介されました（写真2）。はやぶさ2が持ち帰ったイトカワ（S型小惑星：Sは珪質 siliceous に由来）のサンプル粒子は地球由来の岩石とは明らかに異なり（酸素の同位体比 $^{17}\text{O}/^{16}\text{O}$ 、 $^{18}\text{O}/^{16}\text{O}$ が異なる）、また地球上で最もたくさん見つかった隕石（普通コンドライト）の起源は、その多くがイトカワのようなS型小惑星であることが紹介されました。一方、リュウグウが分類されているC型小惑星（Cは炭素質 carbonaceous に由来）は炭素質コンドライト隕石の起源だと予想されているものの、リュウグウの粒子は予想外の組成をしている可能性もあるため、塚本さん自身も早く解析したいとニコニコ顔で解説されました。はやぶさ2が届けてくれるリュウグウのサンプルによって、太陽系科学が進展することが今から楽しみです。聴講者の興味は尽きず、絶え間ない質問があつて、あつという間に講演時間の終了となりました。

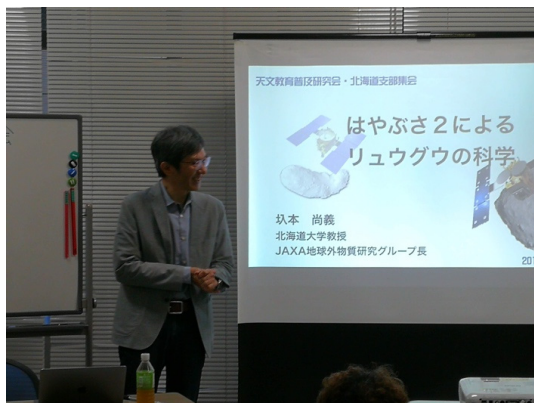


図2 塚本さんのご講演

2.2 一般発表

一般発表は5件ありました。最初の荒明さんの発表は、今回の支部集会の基調講演とも言うべき内容で、星空案内人講座の概要と北海道で開催された2つの講座（美瑛町と芦別市）について紹介されました。美瑛町と芦別市は広い北海道の中にあつても隣町同士で、筆者（内藤）は受講希望者の分散を心配していましたが、講座形式や講座内容が異なることを生かし、また近いが故にお互いが協力・連携できたことで、それぞれ多くの参加者があつたとのこと。北海道（美瑛町&芦別市）から4人の星空案内人と42人の準案内人が誕生したことは、今後の北海道における天文普及活動を盛り上げていく上で、たいへん歓迎すべき報告でした。高野さんの発表では、「仮説実験授業」を取り入れた理科授業について紹介され、高校生たちが太陽系の大きさについて楽しく学んでいる様子が印象的でした。増田さんの発表では、養護学校での天文普及活動についてご自身の苦労話を交えて紹介されました。福澄さんの発表では、生涯学習施設支援WGの成果や今後新たに実施していきたい項目などが報告されました。内藤（筆者の一人）の発表では、今年アポロ11号月面着陸50周年記念にあたり、夏休みに巨大月パズル模型や月に関するパネル展示を企画したことが紹介されました。

2.3 全体討議

全体討議は岡崎（著者の一人）進行のもと、北海道における天文普及教育のさらなる展開について話し合いました。今年度（10～12月）も美瑛町で星空案内人講座が開催される情報が共有され、今後の連携も期待されることとなりました。中島さん（りくべつ宇宙地球科学館）からは、北海道内の天文ファンが集まり交流を深める「星見人（ホシミスト）の会」を10月に陸別で開催する予定で、参

加申し込みを受け付けている旨、案内がありました。来年なよろ市立天文台が開台 10 周年を迎えるにあたり、来年度の北海道支部集会を名寄で開催することや 2030 年に起こる北海道での金環日食に向けてのキックオフミーティングを開催することなどを協議しました。また、来年度は代議員の選挙が予定されていることをお知らせし、積極的な立候補を呼びかけました。



図 3 会場の様子

3. おわりに

今回の北海道支部集会は 32 名の参加があり、これは北海道支部会員数 (20 数名) を上回る数となりました。大半が非会員や初参加の方ということで、新しい出会いも生まれ、天文教育普及研究会の活動 (の一部) を知ってもらえた良い機会になったと思います。今

回の支部集会のテーマであった星空案内人の交流においては、北海道に新しく誕生した星空案内人 4 名の内、実に 2 名の参加がありました。今後、ますます星空案内人が北海道から排出されることで、新しい、より大きな連携に繋がると期待されます。

今回、北海道支部代議員のほか、荒明慎久さん、齋藤優美子さんに世話人に加わっていただき、様々な面でお手伝いいただきました。掲載写真の一部は荒明さんにご提供いただいたものです。本支部集会開催にあたってご尽力いただいた世話人の皆様、発表者・参加者の皆様にこの場を借りてお礼申し上げます。

参考文献

- [1] 日本天文教育普及研究会: 天文講演会「宇宙を見て感じて楽しもう! ~星空案内の楽しみ~ (付:『星のソムリエ』誕生物語)」(<https://tenkyo.net/2018/08/09/>)
- [2] 星空案内人資格認定制度のウェブサイト (<https://sites.google.com/site/hoshizoraannaishikakunintei/>)

内藤 博之
岡崎 敦男

* * * * *